

連載

働く女性 たちからの メッセージ

いきいき
仕事も生活も

会員企業で活躍されている女性社員の方々のキャリア、
働く上で心がけていること、仕事と生活の両立の知恵などをご紹介し
ます。
企業の女性活躍推進のヒントが見つかるかも知れません。（入会順に掲載）

白木 久美子さん

株式会社イズミ
ゆめタウン呉店 衣料品部 店次長



1994年入社。広島、福岡、山口、
岡山の店舗を経て2003年長女
出産。約1年の育児休業の後、ゆ
めタウン呉店テナント次長とし
て復帰。2005年度より、衣料品
部店次長として館内の衣料品の
マネージメントを担当。

●1人の100歩より、100人の1歩

当社では約10名の女性店次長が活躍しています。店次
長は、担当部署の管理のほかに、お店の社会科見学やイ
ベントなどの地域交流も担当しています。お客様、地域の
方々、そして従業員に感動を与える素敵なお店をつくり
たいと思っています。ゆめタウンは、色々な年代の様々な
お客様がいらつしやる場所です。「あなたがいるから来た
のよ。」お客様からのその一言が私達の仕事の醍醐味であ
りますし、こういっていただける人材を育てるのが私の目
標です。個人の力を発揮しながら、売場・フロア・全店が
一丸となり一歩ずつ前進する、これがお客様に感動を与え
る売場作りに繋がります。個々の能力を見極め、伸び伸
びと可能性を發揮できる配置にして「チーム力」を上げ
る。まさに才能豊かな100
人の一歩が「お客様から頼り
にされるゆめタウン」の力と
なっています。私も私生活で
は1児の母であり、家族や職
場の皆さんから理解と協力
を、子供自身からも笑顔と大
きな力をもらって、仕事と家
庭の両立を図っています。



上田 知嘉子さん

岐阜信用金庫
営業企画部 営業企画グループ



2004年入社。営業店にて融資事
務を担当し、2009年10月より営
業企画部に異動。
広告戦略の立案、製作等を担当。

●私らしくチャレンジ

入社以来5年半、営業店の融資事務を担当し、
2009年10月に営業企画部に配属されました。主な業
務として、金庫の広告戦略の立案から製作までを担当し、
金庫のイメージアップを図るため日々努めています。具
体的には、テレビ・ラジオ・新聞等を利用した広告の実施
やオリジナルノベルティの開発を行っています。
営業企画部は男性中心の職場で、仕事も遠慮なく与え
られます。女性の配属は初めてということもあり、配属
された当初はプレッシャーを感じることもばかりでしたが、
周りの上司同僚からの丁寧なご指導のもと、今では充実
した毎日を送っています。
職場の中で私らしく女性目線での企画立案や商品開発を
行い、金庫の新しいイメー
ジを打ち出すことが目標で
す。配属の半年前に結婚し
たばかりで今後出産も考え
ていますが、仕事と家庭を
両立させて、後輩の女性職
員に対してひとつの新しい
働き方を提案していきたい
と思います。



吉田 浩子さん

株式会社ダスキン
総務部 国際室 室長



1990年入社。入社以来国際関連
業務を担当し、2003年5月より
室長となり、現在に至る。

●ダスキンと出会い、ダスキンで成長

入社21年目を迎えます。通訳、翻訳、海外とのコミュニ
ケーションサポートにずっと携わってきました。単に
通訳、翻訳と言っても会社施策や各部門の事業内容の理
解が不可欠なので、常に情報収集と社内コミュニケーション
を心掛けています。また経営陣の通訳をする機会が多
いため、トップの考えを直接聞き、人となりを知ること
が出来ることがこの仕事の醍醐味であると思います。大
会や大人数の会議など、人前で話すことが多いので、緊
張して上手く通訳ができなかったり、ビジネス・業界用
語がわからず多くの失敗を経験しましたが、資料の翻訳
を通し、また先輩から学びながら最近やっと自分で満足
できる仕事ができるようになりました。結婚、出産、育
児そして介護の経験は人間成長及び時間管理と、仕事に
プラス影響を与えてくれました。常に自分そして自部署
のお客様は誰であるかということを意識して仕事をして
います。趣味は太極
拳。将来的には手話
通訳もしてみたいと
思っています。



吉川 夏渚子さん

コベルコ建機株式会社
企画管理部広報秘書グループ



2007年度入社（4年目）。2ヶ月の新入社員研修を修了し、現部署に配属。

●相手の顔を思い浮かべながら

入社1年目に現部署に配属されてから、マスコミ対応や社内に向けての情報発信など、広報業務に携わっています。

入社当初は右も左も分からず、与えられた仕事を一つひとつこなしていくのに精一杯で、何のために、誰のためにこの業務（仕事）があるのかということを考えずに毎日を過ごしていました。

そんな悶々としていたときに、CSR関連である取材をセッティングし、幹部の方に対応して頂いたことがありました。翌日、その内容が紙面に掲載されたのですが、その際、出張中だったにも関わらず、対応して頂いた幹部から「ありがとう」とわざわざ電話を頂きました。

この一本の電話以降、記者の顔・お客様の顔・生産現場の人の顔・従業員家族の顔・上司の顔・社長の顔、これら様々な顔を思い浮かべながら業務に取り組むことが出来るようになりました。雑務であるろうが、大きなプロジェクトであるろうが、一つの業務を通して先に必ず相手がいるということを考えながら、これからは前向きに業務に取り組んでいきたいです。



法林 佳世さん

株式会社富士通ワイエフシー
経営マネジメント本部
ワークライフバランス推進室 室長



1995年入社、システム開発に従事。2003年法務系部署へ異動。2006年1月女性活性化プロジェクトを結成し、活動を経て2006年10月ワークライフバランス推進室へ異動。社員がハッピーになるワークライフバランス向上施策の企画・運営（テレワーク推進等）に携わる。

●私の背中を押した社長からのひとこと

現在、社員一人一人が自分のライフステージにあわせて、よりよいワークとライフのバランスを選択して人生を豊かにしていけるようサポートする仕事をしています。

私自身、管理職の内定が決まったとき、二人目の妊娠がわかり、病に倒れ、入院するという出来事を通し、ワークとライフのバランスに悩む経験をしました。度重なる出来事に、キャリアアップをあきらめようとしていた時、社長から「今こそ、子育てと仕事を両立して、ワークライフバランスを実践する管理職としてモデルになってほしい」と言ってくれました。この言葉にとっても感動しました。会社の為、組織の為に頑張ってみようと思った瞬間でもありました。

難局に当たったときには、いつもこの言葉を思い出します。
今後、一緒に頑張ってくれようとする夫に感謝しながら、社員の応援団となって社員がハッピーになるワークライフバランスを推進していきたいと思えます。

